

# 欧米における遺伝カウンセラー教育プログラム(II) — 米国Sarah Lawrence College:ロールプレイと実習 —



Genetic Counseling Programs in the US and Europe (II)  
-- Sarah Lawrence College in the US: Role Play and Rotation --

中川奈保子<sup>1</sup>、村上裕美<sup>2</sup>、小杉眞司<sup>1,2</sup>

1) 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療倫理学・遺伝医療学

2) 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部



## 目的

ゲノム医療の推進に伴い、その実務を担う認定遺伝カウンセラーの人材育成がより重要視される昨今、遺伝カウンセラー教育について検討することを目的に、先達である海外の養成課程の体制を学ぶこととした。

## 方法

2018年1月31日にSarah Lawrence Collegeを訪問し、遺伝カウンセラー養成課程の教員、スタッフ、大学院生にインタビューを実施した。

## 結果

ここでは、養成課程のプログラムの中から、「ロールプレイ演習」と「実習」に特に焦点を当てて紹介する。

### ロールプレイ演習

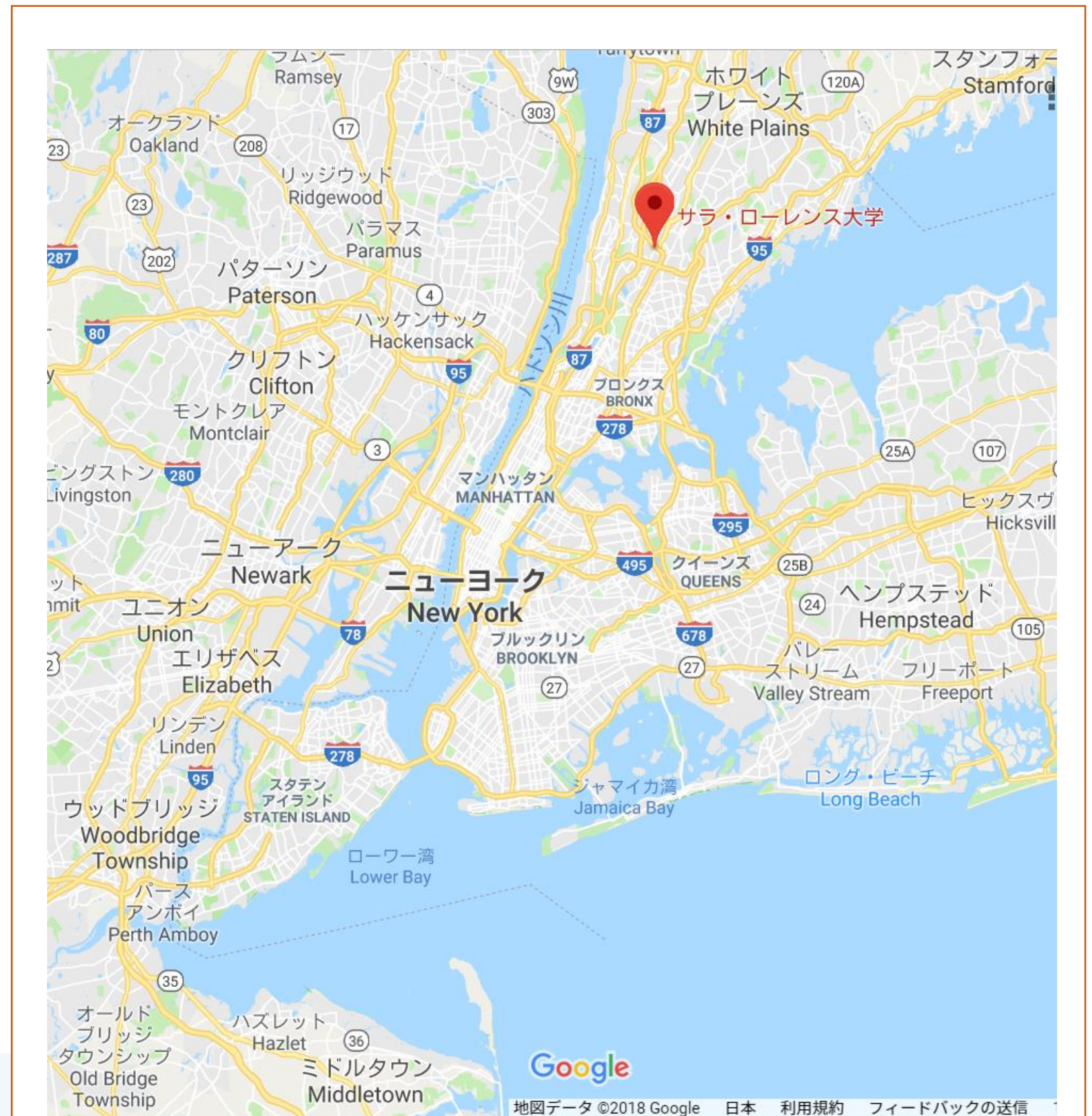
実習の準備段階として、実習とリンクする構成であると同時に、全体を以下の2段階に分け、院生の実力とやる気に配慮した内容となっている。

#### 1) "Comfortable" であること

- ・入学直後からロールプレイ演習を開始するため、不慣れな時期に苦手意識が芽生えないように、無理なく楽しめるよう工夫する。
  - ・遺伝とは関係のない内容で、クラスメートと質問し合ったり傾聴する練習、家系図作成練習を行う
  - ・講師が役割を演じてロールプレイを行い、院生は講師を見て学ぶ
  - ・実際に院生がロールプレイを行い、peer feedback、self assessmentを行う

#### 2) "Challenging" であること。

- ・ロールプレイにも慣れ、遺伝カウンセリングをイメージ可能となった時期には、少し難しい課題も追加しながら院生の背中を押す構成とする。
  - ・心理社会的なアセスメントと介入のスキルを伸ばす:「患者はどのような性格か」「患者はどのような不安を抱えているのか」
  - ・Person-centered approachで対応するためのスキルを用いる
  - ・ロールプレイの様子をビデオ撮影し、自身の姿を確認する



Sarah Lawrence Collegeは米国の東海岸、ニューヨーク州ウエストチェスター郡ブロンクスビルにある、私立のリベラルアーツカレッジである。

マンハッタンから北に電車で30分の自然豊かな郊外に位置し、大学生1,377名大学院生298名と小規模ながら、全米から学生が集まり、53カ国の留学生が学んでいる。

## 実習

Sarah Lawrence Collegeは附属病院を持たないため、地域の医療機関において遺伝カウンセリング実習が行われる。遺伝カウンセリングの陪席は入学当初から始まり、以下のように段階的に進められ、クライアントと適切に関わるためのスキルを身に着ける。実習先では、卒業生を中心に150名以上の認定遺伝カウンセラーがSupervisorとして院生を指導・監督する。

#### 1) 遺伝カウンセラーを観察する

- ・観察の段階では、クライアントと直接関わらず、遺伝カウンセラーの様子を観察する
- ・観察に慣れてきた段階で、遺伝カウンセラーが家族歴を聴取して家系図を作成する際に、家系図の作成練習を行う。セッション終了後に、自ら作成した家系図と遺伝カウンセラーが作成した家系図が同じであるか、比較して確認する
- ・その他、遺伝カウンセラーの手伝いなど、遺伝カウンセラーの振る舞い・対応を学ぶ

#### 2) クライアントに直接関わる

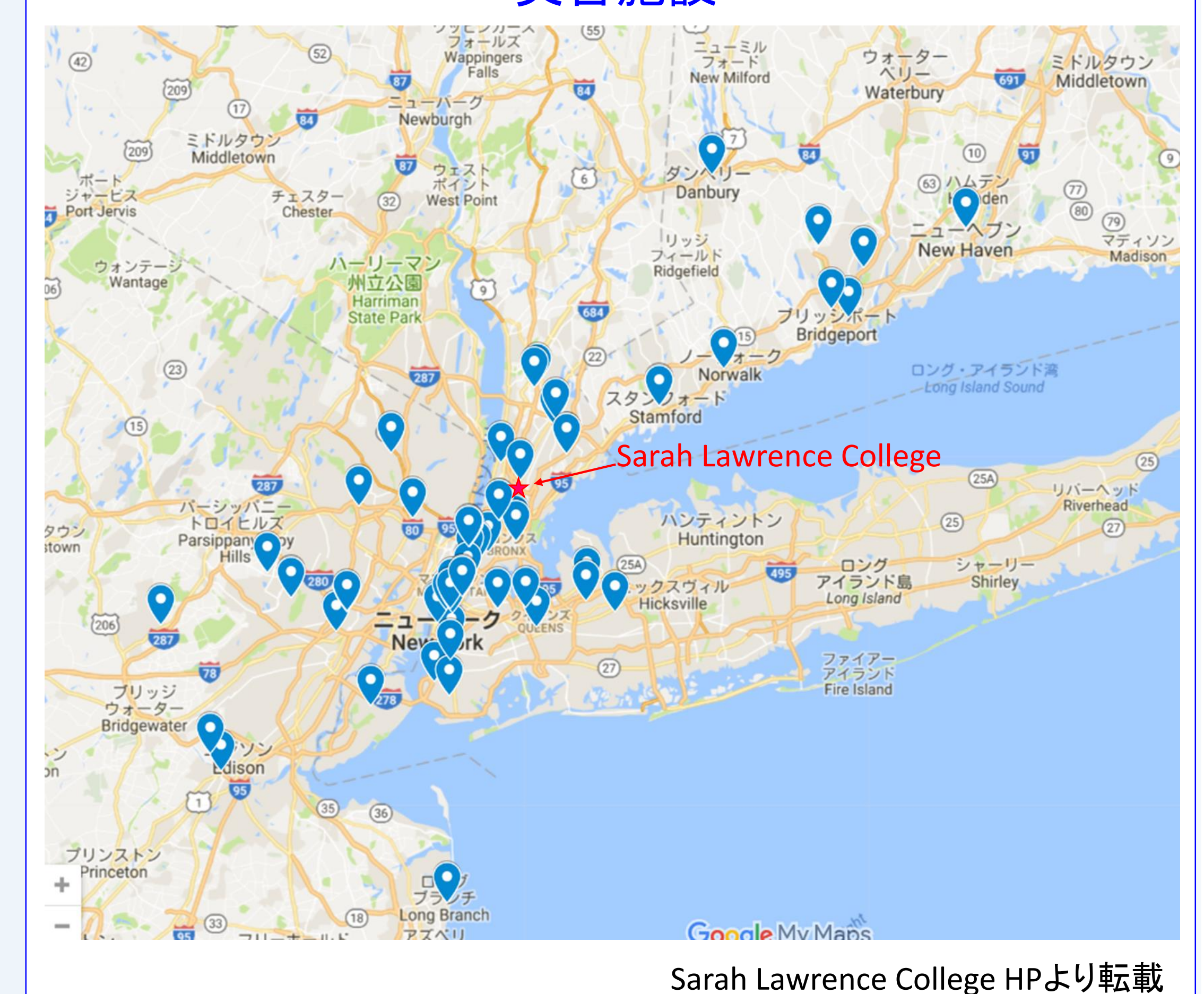
- ・観察で学んだスキルを実際に用いながら、クライアントに直接関わる段階へと進む。
- ・最初は、クライアントの病歴の聴取や、家系図の作成などを行う。
- ・院生の性格や習熟度に応じて、クライアントへの関わりを現場で指導するSupervisorらが判断しながら進めていく。

#### ◎実習施設(右図参照)

実習協力施設は大学病院、総合病院、クリニック、検査施設など70施設を超え、大学周辺やニューヨーク市のみならず、ニュージャージー州やニューハンプシャー州にも及ぶ。

各院生の実習場所は、移動の面でも専門領域の面でも不公平にならないよう、担当者が振り分けを行う。

#### 実習施設



Sarah Lawrence College HPより転載

## 考察

中心となる教員のほとんどが認定遺伝カウンセラーであり、自身の経験を生かすと同時に、多くの卒業生や地域の協力を得たプログラム構成となっている。Sarah Lawrence Collegeの院生数は1学年30名、全体で60名にも及ぶ世界最大規模であるが、教員を中心としたネットワークを生かした教育により、質が高く、院生の満足度も高い教育が実現可能となっていると考える。

謝辞 本訪問調査にご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

※本訪問調査は、AMED 平成29年度ゲノム創薬基盤推進研究事業「医療現場でのゲノム情報の適切な開示のための体制整備に関する研究(研究代表者:京都大学 小杉眞司)」班の支援を受けて実施された。